

想いが繋ぐ受験

初めに私の進路選択から合格までの話をする。

コロナ禍からの休校期間で流れに任せられながら最高学年になった。となれば待ち受けるのは受験。だが、そこには一つ問題があった。私の受験に対するモチベーションが湧かなかったのだ。志望校も曖昧なものでしか無く、文学部志望ではあったものの、文学部ならど

の大学でも同じではないか、そんな思いに囚われてしまった。

幸い時は休校期間、そこから志望校をもう一度考え直すことにした。結局、それがまとまったのは夏休み。私は筑波大学の人文・文化学類比較文化学群を受験することにした。そこで、筑波大学の受験方法を調べ、AC入試を見つけた。AC入試を受けようと思ったのには二つの理由がある。まずは募集期間から結果発表までが9月から11月、と早いことが理由だ。これなら、落ちたとしても次の一般入試への心構え

が出来る。また、一般入試の勉強との両立による負担はあるものの、目先の目標が出来ることで受験へのモチベーションを上げられる。もう一つは、自分の行ってきた活動を活かす機会が欲しいと思ったからだ。留学、国際交流、生徒会、PICASOでの活動、今まで行ってきた事が活かせる機会の一つが受験、これを逃す手は無いと考えた。

想像以上に準備は大変だった。志望校を決めるのが遅かった為に、資料を準備する期間が短くなってしまったからだ。先生方の手厚いサポートを頂き

ながら、PICASO での研究レポートを資料としてまとめ、提出した。繰り返すリテイクは時間との勝負だったが、何度も自分が書いた志望動機やレポートと向き合うことで、自分がこれから大学で何をしたいのか、が明確となった。これが一般入試勉強への心構えにも影響し、より励む事が出来た。そして、面接を経て合格する事が出来た。

ここからは総合型選抜を考えている人向けの話をしようと思う。総合型選抜受験を受ける上で大切なのは『日頃

から問題意識をもつこと』。そしてそれを書き出す、誰かに伝える、といった方法で言語化する事。そうした意識は必ず何かの役にも立つし、総合型選抜ではそうした意識が必要となる。

総合型選抜のメリットの一つは『大学の先生に自分の生の声、文章を届けられること』だ。これから先、そうした機会があるかどうか分からない。入学したい、そこで学びたい、明確な目的があるなら、その想いをぶつけるチャンスに手を伸ばしてみるというのも良い選択だと思う。

最後に一つだけ。

『受験は団体戦。』

120 人もいて、合格が決まった人もまだの人もある。その中で自分以外の誰かを思いやれない人も出てくる。それに流されてしまう人も。そういう意味では団体戦という表現の苦しさも感じた。

だからこそ、これを読んでくれている貴方は身近な友達だけでいいから応

援できる人になって欲しい。一人の応援だけでもその心は支えられる。あなたと友達だけでいい、二人でも三人でも。先に合格が決まったとしても声援を送る側に回れる人、そして先生方や家族のサポートへの感謝も忘れない人であってほしい。それが団体戦だと思うから。貴方は一人じゃないし、貴方以外を一人にしない、そんな思いやりを持てる事が受験、そしてこれからの生活での心構えとして大切なことだ。

ぜひ、貴方の夢に向かって努力を続けてくださいね。